

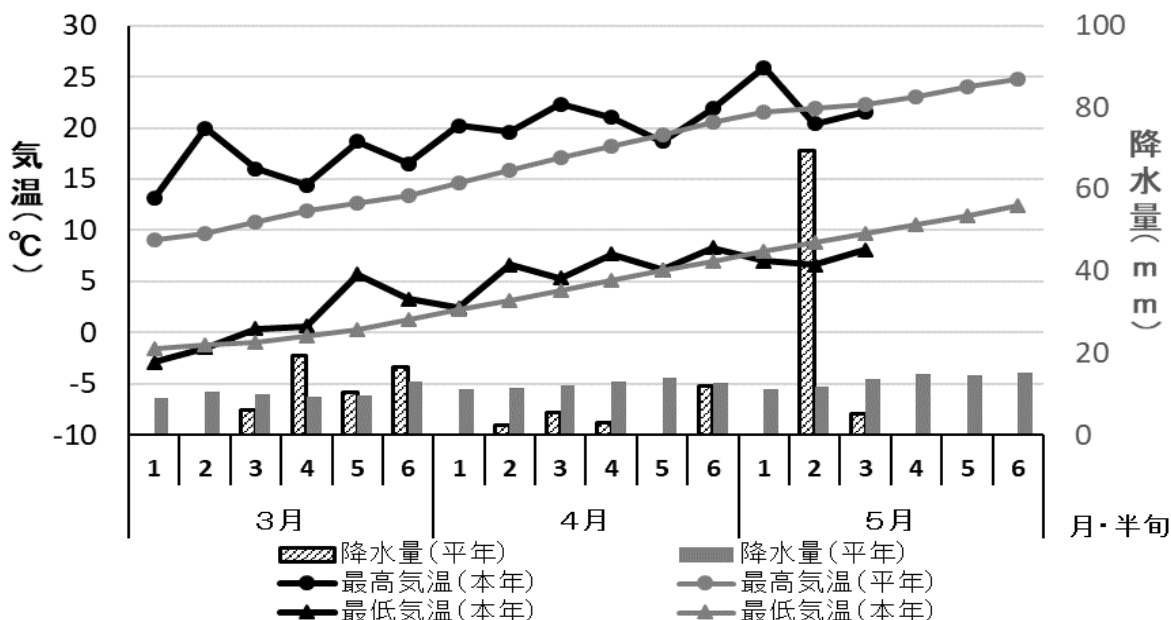
# 雨よけ・露地きゅうりの栽培管理

令和5年5月25日

J A 心くしま未来伊達地区本部／伊達農業普及所



## 気象経過と今後の見通し(仙台管区気象台 令和5年5月18日発表)



### 【経過（アメダス梁川測定値）】

最高気温は4月4半旬までは平年値を上回っており、日中の気温が高い傾向でした。最低気温はやや高い時期もありましたが、ほぼ平年並で経過しています。5月2・3半旬は最高・最低気温ともに平年よりやや低い傾向でした。

降水量は3月後半は平年並でしたが、3月前半と4月は全体的に乾燥傾向で、5月2半旬は69.5mmとまとまった降水がありました。日照時間（グラフなし）は3月5半旬、4月2半旬、5月2半旬が平年値を下回りました。

### 【1ヶ月予報】

天候：天気は数日の周期で変わるでしょう。

平均気温：暖かい空気に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の気温は高いでしょう。1週目は高い、2週目は平年並か高い、3～4週目はほぼ平年並の見込み。

降水量・日照時間：ほぼ平年並の見込み。

### 【3ヶ月予報】

5月：天気は数日の周期で変わるでしょう。気温はほぼ平年並の見込みです。

6月：前半の天気は数日の周期で変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は平年並か高い見込みです。

7月：平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温はほぼ平年並の見込みです。

降水量は、いずれの月もほぼ平年並の見込みです。

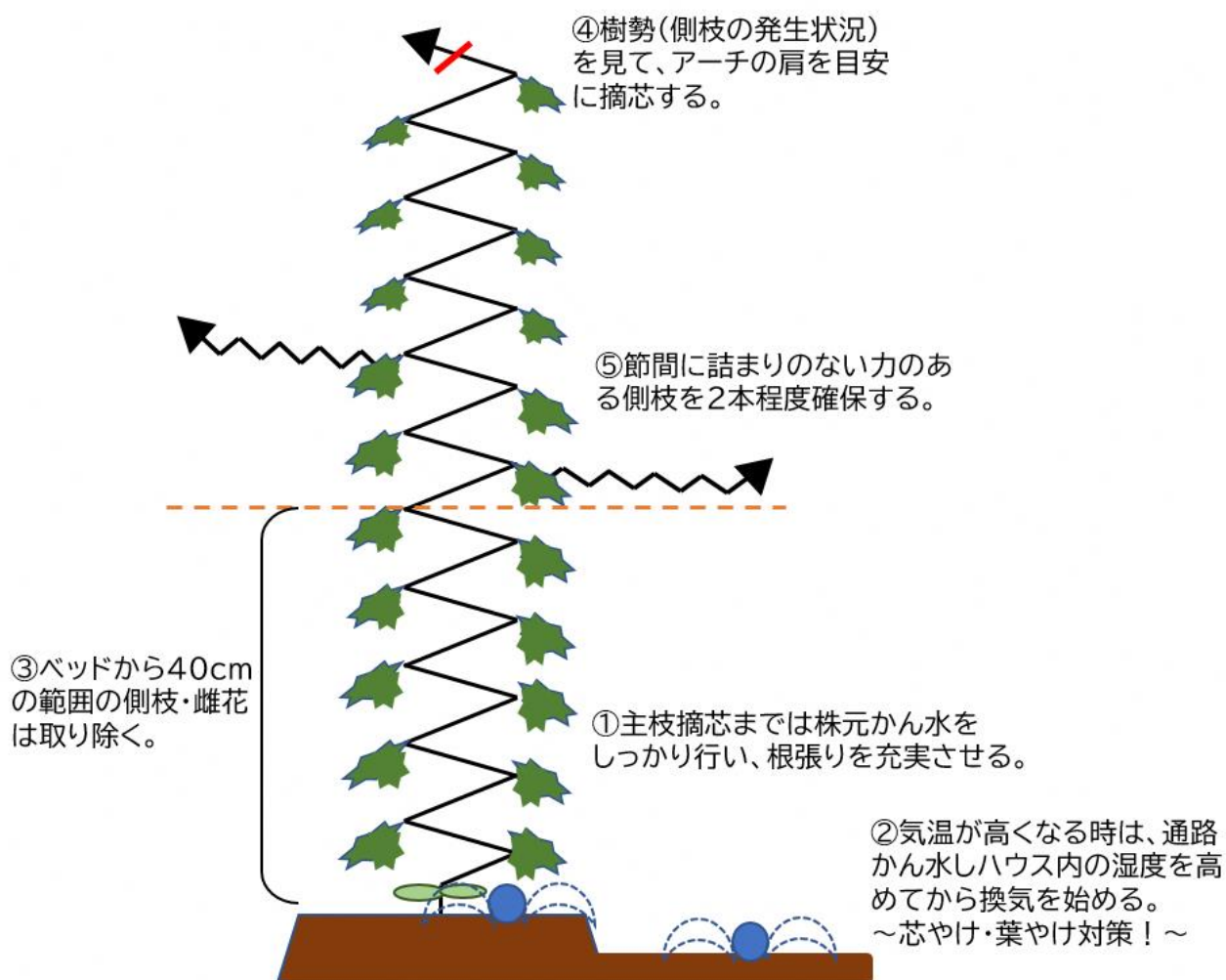
# 雨よけきゅうりの栽培管理



## 管理のポイント

- ①主枝摘芯までは株周りの土が乾かないようにかん水する。
- ②昼と夜の温度の差が大きいため、『芯焼け・葉焼け』に注意しながら換気管理を行う。
- ③梅雨期に高温の可能性があるので、病害の早期発見に努め発病初期に防除を行う。

## 1 これからの管理 ～主枝摘芯までは『樹づくり』～



- ①気温が高くなる予報の日は、20℃でサイド換気を始める。→芯焼け・葉焼け対策参照
- ②主枝の節間がスッと伸びてきてから、力強い側枝を1～2本確保する。
- ③主枝の摘芯はアーチの肩に届く頃が目安だが、側枝の発生状況を見てタイミング良く摘芯する。側枝の力強い生長点が3～4本ある状態で摘芯する。
- ④温度管理

午前	午後	夕方	夜間
25～30℃	23～25℃	14～17℃	12℃

## 2 芯焼け・葉焼け対策 ～発生する要因と対策～

### (1) 晴天日に一気に換気を始めた時

#### 【発生するしくみ】

晴天日、ハウス内が高温になってからあわてて全面換気を行うと、ハウス内の湿度が急激に低下してしまう。湿度が急変すると植物は気孔を閉じてしまうので蒸散が行われなくなる。

#### 【対策】

- ①ハウス内気温が20℃になる前に、妻窓を開けるか風下側サイドを10cm程度開けて換気を始め、湿度の急変を防止する。
- ②開け遅れて気温が上昇してしまった場合は、通路にかん水を行い、ハウス内の湿度を確保した上で少しずつ換気する。

### (2) ①主枝摘芯前で根張りが十分でない時。②ハウス内の乾燥や高温が続いた時。③着果負担が続いて草勢が低下している時

#### 【発生するしくみ】

根からの水分吸収が十分にできないため、葉からの蒸散スピードに追いつかない。

#### 【対策】

- ①主枝摘芯前：根張り（根の量）を確保するため、活着までの株元かん水を徹底するとともに、ベッド内の水分も確保する。その際に発根促進剤（アミハート、新チャンス液）を併せて施用する。
- ②ベッド肩や通路へもかん水・施肥を積極的に行う。少量多回数のかん水を心がけ、日中もかん水する。
- ③発根促進剤（アミハート、新チャンス液など）と併せて追肥（トミーエボリューション、液体ジャンプなど）を行い、草勢を回復させる。

### (3) 梅雨期の合間に晴れた時

#### 【発生するしくみ】

曇雨天日が続くと、光合成ができず葉が軟弱に生育する（葉が柔らかく厚みがない状態）。そのような状態の時に晴天になると、葉からの急激な蒸散に根の吸水が追いつかない。

#### 【対策】

蒸散抑制資材（プロテックα）の散布や、保水力向上資材（アイスバリア）等を晴天が見込まれる前に散布する。

## 3 摘果・葉かき・整枝

### (1) 摘果

- ①ベッドから高さ40cmの範囲には実をつけない。
- ②主枝の連続着果・ダブル着果は草勢低下につながるので、開花前に摘果する。
- ③不良果は、できるだけ小さいうちに摘果する。

### (2) 葉かき

- ①本葉15枚頃になったら、主枝の下葉2枚程度を除去し葉かきを始める。
- ②本葉18～20枚頃に、下葉5枚程度を2回に分けて除去し通風をよくする。
- ③下葉、古葉、病葉に限らず、節間が詰まっている等で繁茂している部分や、側枝伸

長の邪魔になっている葉も積極的に摘葉する。

④葉かきした葉は、ほ場外に持ち出して処分する。

### (3) 整枝

①本葉10～12枚頃に、ベッドからの高さ約40～50cmまでの側枝を2回に分けて除去する。

②主枝10節頃の側枝を1本残して力枝とし、草勢を維持する。

(節間がスッと伸びてきた以降の節から発生した側枝が理想)

③力枝以外の側枝は、1～2節止めを基本とする。

④主枝摘芯時は、側枝の生長点を3～4本程度確保した状態で行う。

## 4 かん水と追肥

(1) かん水 ～耐病性品種は乾燥に弱い！積極的にかん水しよう～

生育 ステージ	かん水方法	かん水量 の目安
活着頃まで	株元中心にベッド内へかん水する。晴天日が続くようであれば、土の乾きがないように一日数回かん水する。 さらに、空気中の湿度確保のため通路へもかん水する。	
主枝摘芯まで	徐々に通路側にかん水位置をずらす。(根張りの先端をねらう) ※晴天日が続くようであれば、株元が乾かないようにかん水する。	生育初期 1日1株当たり 400～500cc
収穫期	徐々にかん水量を増やす。 吸水量は朝夕少なく日中多くなるので、日中のかん水量を多くする。	収穫開始頃 1日1株当たり 1.5～2リットル

(2) 追肥 ～側枝収穫が始まったら追肥はこまめに～

1回目の追肥	主枝の雌花の開花～肥大始め頃から 窒素成分で0.5kg/10a
本格的な追肥開始	子づるの果実肥大期頃から 窒素成分で0.5～1kg/10aを5～10日間隔
収穫開始期以降	収穫量に合わせて施肥間隔を調整する。特に収穫最盛期は遅れずに追肥する。 収穫量約500kg/10aごとに窒素成分で2～3kg/10a
着果負担で草勢が低下した時、梅雨時期の生育不良の時	リン酸、カリ、苦土などの補給として、アミノメリット青+グリーンセーブプラスの葉面散布や、トミー液肥グリーン、トミー液肥エボリューションなどの液肥を施用する。

# 露地きゅうりの栽培管理



## 管理のポイント

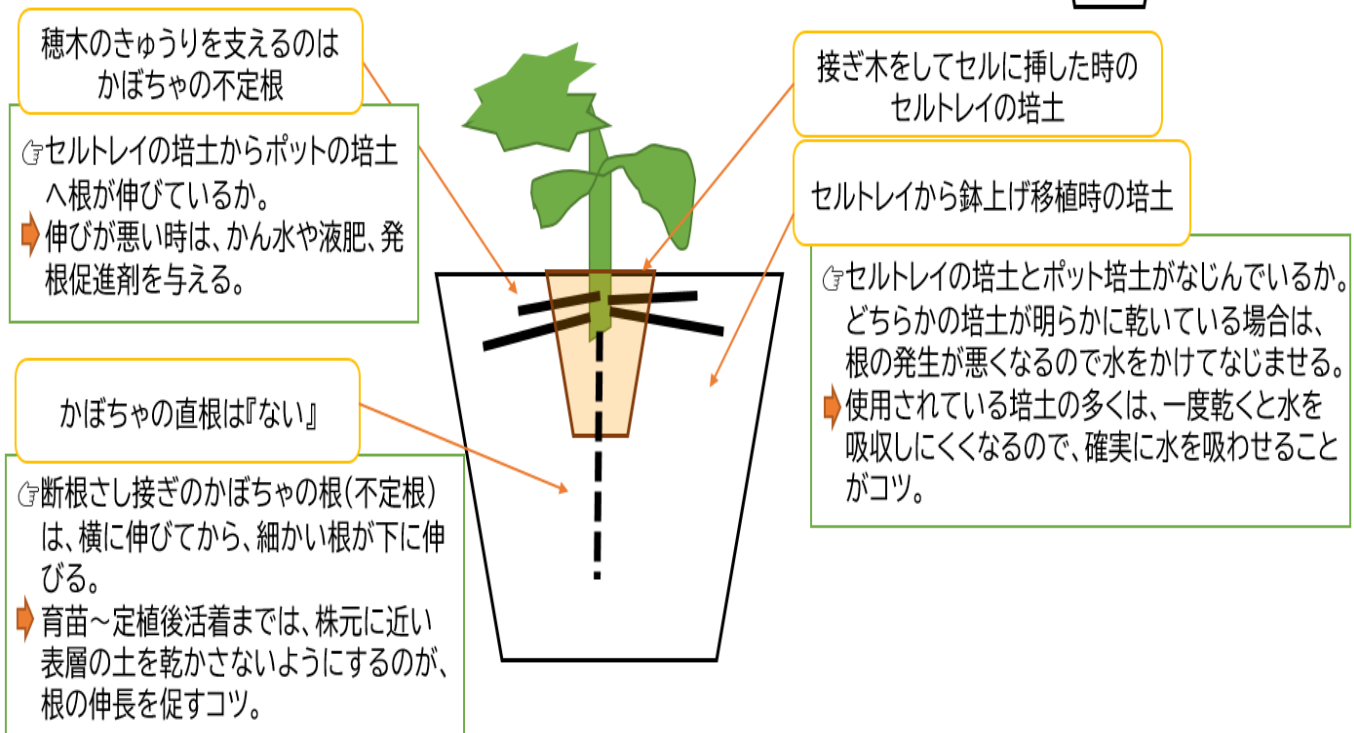
- ①収穫開始までにどれだけ根を張らせられるか、根量確保を意識して管理する。
- ②本葉8枚までは活着を促すため、株元かん水をしっかりと行う。
- ③梅雨期に高温の可能性があるので、降雨前後の薬剤散布を徹底する。

## 1 収穫の決めては根張り！



### 定植苗(購入苗)～断根さし接ぎの苗を解剖してみる～

○断根さし接ぎの苗の特徴は、『台木の根が不定根』であること。



### 苗が届いたら

- ①ほ場の環境にならす（2～3日程度）。
- ②水をかける（ポットの土が、水をはじかなくなるまでしっかりかける）。
- ③定植前に根張りを良くするために液肥（闘根242など）にどぶ漬けする。

## 2 これからの管理

雨よけきゅうりに準じて管理をする。

### 病虫害防除

#### ●害虫防除を徹底しよう！

アブラムシ類の発生が見られています。ウィルス症状が見られる場合は、ほ場外に持ち出して処分しましょう。

乾燥傾向が続く場合は、ハダニ類、アザミウマ類の発生にも注意してください。

#### ●JAの令和5年度版野菜病虫害防除基準を参照すること。

作用機構コード『4A』の農薬の連用を避けましょう。

防除基準の殺虫剤の表の中の「作用機構コード」に『4A』と記載されている農薬（例えば、アクタラ顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、ダントツ水溶剤、ベストガード水溶剤、モスピラン顆粒水溶剤など）は、アブラムシ類に抵抗性がつきやすくなっているため、作用機構コード『4A』のものを連用しない。

異なる作用機構コードのものとローテーションを組んで使用してください。

『アドマイヤー』は定植後の露地栽培には使用できません。

アドマイヤー水和剤、アドマイヤー顆粒水和剤、アドマイヤーフロアブルは、農薬登録の内容が変更となり、施設栽培のみの使用となりました。

露地栽培では使用できないので、注意してください。

※上記の農薬使用方法は、令和5年5月10日現在の登録内容に基づき編成しています。

### 普及所からのお知らせ

農業事故が発生しています。  
作業前の点検をしっかりと行い、農作業安全に努めましょう。



暑さに慣れていない時期です。  
適宜、休憩と水分補給をして、熱中症対策をしましょう。

農薬は、最新の農薬登録情報を確認して使用しましょう。  
使用したときは速やかに記帳しましょう。



農地中間管理事業を活用し、地域農業を守りましょう。  
収入保険制度・農業共済制度等を活用し、経営の安定を図りましょう。